

東京社保協ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

第45回東京社保学校を開催！



第45回東京社保学校を、10月16日にけんせつプラザ東京で開催し、団体・地域から136人が参加しました。

社保学校は、椎橋副会長の司会・進行で進められ、竹崎会長が開会あいさつしました。

第1講義は、渡辺治一橋大学名誉教授が「参議院選挙・東京都知事選挙の結果と今後の運動」と題して行われました。

渡辺名誉教授は、参院選の結果が安倍政権のゆくえを決め、他方、対抗する運動側の方角も明らかにした参院選の分析を通じて、参院選共闘

草の根の運動強化に向け136人が参加



講演する渡辺治先生

の切り開いた新たな地平と参院選後の安倍政権の改憲戦略など、安倍政権の今後と運動方向と課題を、歯切れよく明らかにしました。あわせて、都知事選の結果と敗北の原因についても、共同の失敗ではなく、戦争法反対だけでなく、くらし・社会保障など共同の課題を発展させていくことの重要性を指摘しました。

最後に渡辺先生は、「憲法は死んでいない」憲法は国民の中に確固として定着しており、共同をめぐる攻防の本番を「くらしと平和」を掲げて地域と共同を旗印に運動に確信をもつて進めていこうと結ばれました。

昼食休憩後、東京公害患者の家族



講演する竹崎会長

の会と介護をよくする東京の会から署名の訴えがおこなわれ、その後、第2講義として、竹崎三立会長から、「医療現場から見える地域医療の現状」と題して講演が行われました。

竹崎会長は、国民の置かれている貧困や経済状況の変化、入院医療の入院日数による変化や在宅復帰率、東京都保健医療計画の到達点と医療・介護大改悪の実態、などについて、多彩な資料をもとに講演され、自身の体験、実際におこっている医療現場での事例報告を行いながら、格差・貧困の拡大で十分な医療・介護が受けられない国民が増えてきていることを明らかにしました。そして、地域での街作り、見守り、手助けなど、地域社会の再構築が求められており、地域での社保協運動の発展を呼びかけました。

その後、特別報告が行われ、①王子駅前なんでも相談会の取り組みについて、北区社保協の森松伸治事務局長、②2010年10月以来ほぼ毎月中野駅前で開催しているなんでも相談会について中野共立診療所の松本明彦事務局長③ほぼ2カ月に1回、渋谷駅で行っているなんでも相談会



司会・進行椎橋副会長

の取り組みについて渋谷社保協の嘉瀬秀治事務局長が報告を行いました。また、生活と健康を守る会の都営住宅相談会の取り組みについて、都生連副会長の伊藤悦子さんが、大田病院の無料低額診療の実践を長澤伸彦大森中診療所事務局長が報告しました。

2つの講義と5つの特別報告を受け、寺川事務局長が以下の行動提起を行いました。

「憲法9条・25条を守ろう」を掲げ、「安全・安心の医療介護を実現する大運動」3年目に取り組むために、

①この間取り組んできた「社会保障は国の責任です」署名については、臨時国会終了後も取り組みを継続し、年内一杯で集約していきます。なお、来年の通常国会に向けての新たな署名については現在検討中ですが、東京土建や東京地評などと相談の上、独自署名に取り組む予定です。



②節を設けて取り組みを進めます。

『第1節』を12月末までとし、来年の通常国会への法案作り阻止に向けて、各審議会などでの議論の進捗状況の把握、審議会傍聴、国会議員要請、各自治体での意見書採択、臨時国会でのTPP批准阻止に取り組みます。

『第2節』として、1月～3月の国会での予算審議にあわせて、政省令・予算措置で行う改悪を阻止するために、宣伝・署名活動の強化や国会議員要請、委員会傍聴などに取り組みます。

『第3節』は4月～会期末までとし、法案審議での国会内外でのたたかいの強化と宣伝・署名、国会議員要請、委員会傍聴、都議会議員選挙準備などに取り組みます。

③すべての地域で、年末から年度末にかけて「なんでも相談会」に取り組みましょう。

④要支援1・2の方の自治体の総合事業への移行問題や、国民健康



行動提起・寺川事務局長

保険の財政運営を都道府県が担うことによる各自治体の考え方と現状・計画などについて、自治体との懇談や出前説明会、自治体要望、保守系を含めた会派要請・懇談などに取り組みましょう。

以上の行動に取り組むことを提案し、参加者全体で確認し、丸山副会長が閉会あいさつを行い、社保学校を終了しました。



閉会挨拶・丸山副会長

感想文から

全体で54通の感想文をいただきました。その一部を紹介します。

(第1講義)

▽今後の運動として、平和憲法だけでなく日々の暮らしを重視しながら野党共闘を続けていくことが重要だとわかった。

▽安倍政権を倒せなかったのは「受け皿」はできたが「料理」が作れなかったから、というお話が新鮮でした。急いで野党共闘による魅力的な「料理」を国民に示

そう。

(第2講義)

▽病院などの実態が豊かな資料と共に語られ、怒りと同時にたたかっていくことが大切だと感じました。

▽地域医療の実践の中から、事例も紹介して話され、改めて憤りを感じました。

(特別報告)

▽各地域で様々な相談会が行われて、悩みを持つ人が相談会に参加することで、いくつも問題解決に向かうなどの成果と、皆さんの頑張りがよくわかりました。

▽現場での行動・活動の実態が伝わる報告だった。地域の特性もあり、それぞれの地域で工夫しながらの活動が見て取れました。

(全体の感想)

▽今回初めての参加でしたが良い経験でした。定期的な開催と若年層の参加で、もっと問題提起につなげていければと感じた。

▽事例を交えた報告を伺うことで、普段の取り組みがいかに大切かを認識することができました。

(希望テーマ)

▽憲法の講演は続けてほしい。

▽社会保障に関するリアルタイムな情報の学習を。

▽来年も相談会をやってみたら。

各地域・団体の取り組み

墨田社保協



墨田社保協は、9月28日に定期総会を開催し、東京社保協の相川氏を招き、9団体30人が参加しました。

代表幹事の中村正樹氏による情勢報告後、鈴木太一事務局長が活動方針として、区民の社会保障に関する要求実現めざし、毎月の駅頭宣伝、対区交渉の取り組み強化、学習会の開催などが提案されました。その後、参加各団体からの報告があり、最後に総会議案と役員の承認を行い総会を終了しました。

墨田社保協では、医療・介護・年金・生活保護等の、私たちの暮らしを脅かす一連の社会保障改悪に反対し、運動の強化を進めていきます。

(事務局次長 長妻 伸治)

介護フォーラム

10月1日、介護フォーラムを開催し102人が参加しました。東京民医連の及川さんの司会で進められ、安達智則さん(東

京自治問題研究所主任研究員)が「迫りくる介護保険の危機にいかにかち向かうか」と題して問題提起を行い、その後、総合事業を先行実施している自治体の現状と実態が報告されました。

国立市では、実施前はヘルパーが利用者の自立を促すための生活援助を行っていたが、実施後はヘルパーが単独で行う「家事代行」に変えられ、生活意欲の喚起や認知症の早期発見ができず、自立に繋がらないと報告。

品川区では、総合事業への移行が強力に推し進められた結果、介護保険給付の対象と認定される人が大きく減っていることが報告され、稲城市では「この間の運動がサービスク切り捨てをさせないできた」と報告しました。

参加者からも、総合事業に移ってからの地域格差の拡大に対する懸念と運動の強化の必要性が語られました。

最後に、総合事業に対する自治体への取り組みの強化と現行サービス確保の取り組みを行うことを確認して閉会しました。



最後に、総合事業に対する自治体への取り組みの強化と現行サービス確保の取り組みを行うことを確認して閉会しました。

生存権東京連絡会



生存権裁判を支える東京連絡会第10回総会が、10月22日に開催され62人が参加しました。

総会は、東京民医連の杉田大樹さんの司会で進められ、主催者あいさつを佐藤直哉代表委員(東京地評)が行い、全国連から前田美津恵事務局長があいさつし、東京弁護団報告を淵上隆弁護士が行いました。

記念講演は、後藤道夫都留文科大学名誉教授が、「深刻化する貧困と社会危機―総反撃の社会保障運動、労働条件・賃金運動を」と題して講演しました。

議案提案を寺川事務局長(東京社保協)が会計報告を水上昭三事務局員(都生連)が行い、全体で議案を確認しました。東京社保協から竹崎会長が代表委員に、寺川事務局長が事務局長に選出されました。

最後に、坂口忠男代表委員(都生連)が閉会あいさつし閉会しました。

大田介護シンポ



大田区政を変える会は9月15日、「介護施設・制度の充実はあるの願い」をテーマにシンポジウムを開催し55人が参加しました。

パネリストは、東京社保協の相川さん、介護保険利用者の家族の中川さん、訪問介護経営者の望月さん、地域包括支援センターの杉山さんの4人でした。

相川さんは、介護保険の現状と制度の問題点を明らかにし、これからどうなるか、あるべき制度は何かを語りました。中川さんは、お母さんの介護を通じて感じることをリアルに報告。

望月さんは、「倒産と離職で最悪の事態」「迷惑はかけないで死にたいと利用者は思っており制度の悪さが問題」と指摘しました。杉山さんは、自治体から委託された介護事業を民医連の立場で取り組んでいることを、具体的事例を紹介しながら報告しました。

出席者からは、切々とした訴えや制度の改善を求める声が相次ぎました。

(大田区政を変える会 馬場)

10-20国民集会

憲法・いのち・社会保障を守る10・20国民集会が、10月20日に日比谷野外音楽堂で開催され、全国から3千人が参加しました。

主催者あいさつに立った日本医師連・中野千香子委員長は、新潟県知事選での市民と野党の共同で知事を誕生させたことにふれ、原発再稼働やTPP批准にノーの審判を下したもので、TPPは保険のきかない医療を広げる可能性があり、医療にとっても重大問題だと告発しました。

リレートークでは、医療や介護、保育の現場からの訴えが行われ、NPO法人ほっとプラスの藤田孝典氏がゲスト講演を行い、集会終



中野社保協

了後に銀座パレードを行いました。

中野社保協は10月13日、「生涯貧困時代、生き延びる処方箋はあるか」をテーマに、「下流老人」

「貧困時代」の著者でありNPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典さんの講演会を開きました。

廃車された車の中で暮らしていた男性の生活保護の申請を支援した「10年ぶりに布団の上で寝た」と喜ばれたというNPO活動の原点の紹介から始めた藤田さん。「今、現場の相談から政策を作っていくことが求められる」貧困を『見える化』し、貧困政策をメインストリーム（主流）に押し出したい」と活動への思いを話しました。

また、社会や政治家に貧困の実態を伝え、問題提起し、政策を変えさせるわかりやすい言説が社会保障の運動にはもっと必要だと感じ、生活保護相当で暮らす



かその恐れがある「下流老人」や、低賃金で将来も無年金や低年金のため貧困な生活が続く若い「貧困時代」という言葉を作ったと話しました。

年金だけでは生活できないと病院に行かず、胃がんをがまんしながら新聞配達を続ける70代男性など高齢者の貧困、長時間労働とパワハラで不安障害となり離職し困窮した20代男性や奨学金返還による借金や高い家賃に苦しむ若い世代の貧困、ひとり親世帯の貧困などの実例を示し、貧困と格差が広がる要因として、①生活困窮者を支援する「防貧政策」の不足、②現金給付や現物給付の政策の不足、③貧困を生み出す雇用シス

独自国会行動

日時 11月16日(水)10時半～

会場 参議院議員会館B104会議室

内容 10:30～ 議員要請出発集会
12:15～ 定例国会前集会
13:30～ 院内集会

主催：東京社保協・中央社保協

東京母親大会

日時 12月10日(土)9:50～

会場 板橋区立・成増アクトホール

内容 9:50～ オープニング
10:15～ お話し 板垣淑子さん
14:15～ 記念講演 山田朗さん

主催：東京母親大会実行委員会

これぞいいか2020東京オリンピック

-オリンピックと自治体行政-

日時 11月19日(土)13:30～

会場 エデュカス東京7階会議室

内容 講演：佐伯年詩雄氏
(日本ウェルネススポーツ大学教授)

主催：オリパラ都民の会